

No	32									
指標名	迅速細胞診実施率(胃癌)									
定義	$\frac{\text{(分子) 分母のうち、術中迅速細胞診を行ったもの}}{\text{(分母) 腹腔鏡、開腹による胃癌悪性腫瘍切除術が行われた患者数}}$									
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院</th> <th>全国中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2018年度</td> <td>66.4%</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>60.4%</td> <td>5.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2018年度、2019年度における当院のデータ (全国)2018年度、2019年度に実施した病院の中央値 (2020/04/25 時点) ※他院との詳細な比較につきましては「全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業」のページをご参照ください。</p>	年度	当院	全国中央値	2018年度	66.4%	4.4%	2019年度	60.4%	5.6%
年度	当院	全国中央値								
2018年度	66.4%	4.4%								
2019年度	60.4%	5.6%								
コメント (解説)	<p>胃癌手術時に術中迅速細胞診(腹水細胞診または腹腔内洗浄腹水細胞診)が行われた割合です。</p> <p>腹水細胞診が陽性であった場合は術後に高率に腹膜播種再発などが発生し予後不良となる可能性があります。</p> <p>術中迅速細胞診を施行することで術中に適切な術式変更を行うことも可能となります。</p> <p>当院では60.4%と全国値と比較して高率に術中迅速細胞診を施行しており、病理検査が術中に施行できる環境が整備されています。</p>									